



# 好奇心に導かれて、 キャンプで臨む町おこし

橋野 一勝

(井川町地域おこし協力隊)

## 1 来歴

現在、私は井川町の日本国花苑キャンプ場でイベントの企画をしています。大阪で26年過ごした後、何の縁もなかった秋田へ移住しました。突拍子もないと言ってしまえばそれまでののですが、協力隊活動についてお話しする前に、少しだけ自分のことについて触れておきます。

ずっと好奇心の塊で生きています。大学で微生物学を修めた後、お菓子屋さんに3年間勤めていました。カフェでコーヒーを吸りながら本を読むのが好きです。かといって閉じこもっているでもなく、キャンプや秘境巡りの旅が大好き。ネコを深く愛していますが、いつかベトナムで猫料理を食べたいとも思っています。私の自己を構成するそれらは、ちぐはぐで一貫性がありません。もしも無理やり共通点を見出したら、自分の本質が映るからなのかな、となんとなく思います。

ちょっとした小話をします。進化生物学において、すべての生物は同一の個から派生したらしいですね。「自己複製」と「変異」の能力を持った遺伝子と呼ばれる物体が、38億年も消滅を免れているだけ。自己複製に不利な形質が淘汰され、時々環境に適応していきます。例えば私は自然が好きなのですが、それも自然に興味、関心が強い個体が、狩猟・農耕に有利な時代があり、その遺伝形質が自然淘汰の果てに、今日の私にただあります。

「感情」は進化の過程で偶発的に生まれ、感

情を持つ個体が生存に優位だった結果、存在しています。自分の感情に振り回される度に、何度も考えてきました。私はなんでこんな思いをしているんだろう、まともじゃないんだろう、と。「なんで」を突き詰めれば、進化生物学では「種の存続に有利だったから」の一言で、すべて解決してしまうのです。それじゃあ、取り付く島もないじゃないか……。私という一個体にとって、私の形質が、私の幸福に有利である必要がない。哲学も宗教も全て錯覚でしかなかった。

幸せについて考えを突き詰めたら、答えのない袋小路にいました。しかし素晴らしい気づきを得ました。世界のすべてが錯覚なのだから、世界を自分の好き放題に解釈していいのです。幸福でいたいなら、幸福に都合のいい視点を持つことなのだと思います。生物学が育んでくれた合理的思考を礎に、最高の色眼鏡を作るために、秋田で日々奮闘しています。



(長野県・赤岳を登山)

幸福とは何によって形作られるのでしょうか。精神的な豊かさを求める時代に変化してきたわけですが、劣等感に打たれ弱い人類が優劣をつけたい、個で完結した幸福の一つが、自然体験です。人類から自然嗜好の遺伝子が淘汰されるまでに数千年はかかります。自然体験は多くの人に、長く求められるレクリエーションです。

井川町には、“日本国花苑”という巨大な公園があり、その一角には広大な芝生サイトの美しく整備されたキャンプ場が、ただ存るだけでした。人目に触れることの少ないその施設に、私は人々がより深いキャンプ体験に没入できる仕組みを作り、精神的な豊かさを高めたいのです。人々の幸せの土台を作る、と言い換えてもいいです。

長々と動機を語りましたが、みんなのハッピーを創造することが、私のハッピーなのです。

## 2 活動

役場が私に求めている立場の上で、私が個人的に定めた目標は【年間利用者数5,000人突破】です。国花苑キャンプ場は、キャンプ場として次のような強みを持っています。「予約不要」、「膨大なキャパシティ」、「入浴施設」、「見晴らしが良い」、「スーパーまで5分」……挙げればキリがありませんが、ひとまず雑なキャッチコピーを組むなら【初心者・ファミリーキャンプ向き】です。

キャンプ場として非常に優れた素質を備えています。私が着任した2023年度の年間利用者は約1,800人で、この数値はキャンプ場の機能に見合っていないと感じています。公営のキャンプ場の在り方として、「知る人ぞ知る～」は相応しくない。役場ではイベント開催による賑わいの創出をイメージしておりますが、私は広報活動で平均利用者数を伸ばしてからイベント

を開催すれば、よりスムーズに目的を達成できると考えました。どちらも重要ですので、認知度向上を活動の根底に、イベント開催によるキャンプ体験の価値向上を目指しています。



(国花苑キャンプ場の芝生サイト)

実際、キャンパーの人目に付く場所（Google map）に国花苑キャンプ場の情報を置くと、利用人数は倍近くに伸びました。しかし同時に、利用人数の増加はトラブルの増加に繋がり、マナーの悪化を促進してしまいます。マナーの悪化がもたらす不安感は、幸福の受容に対してすさまじいノイズです。利用者の意識改革のために、私の着任時には無料だったキャンプ場に料金を定め、マナー周知に努めていますが、ハードルの高さを痛感しています。

イベントについては、まず汎用性のある“核”が欲しかったので、町民の方々と協力してファイヤーピット（…焚火場）をレンガで組みました。キャンプの醍醐味といえば焚火です。芝生のキャンプ場は焚火の自由度が低いため、大きな火を扱えるファイヤーピットを設置しました。この設備は予約申請すればどなたでも利用可能であり、キャンプを盛り上げることはもちろん、他にも飲み会やミーティングのレクリエーション装置として用いることができます。

毎月第三土曜日にワークショップイベントを開催し、その後に参加者たちで焚火を囲んで雑



談をする、その光景が私の理想の国花苑キャンプ場イメージの一枚です。

令和7年10月現在、開催してきたワークショップは、パラコードストラップづくり、着火剤づくり、窯焼きピザづくりなど。イベント主催の経験は皆無でしたし、井川町史上で初の協力隊ですので、ノウハウを全てゼロから組み立てています。無謀なチャレンジに協力して下さる町民の皆様には本当に頭が下がります。



(自作ファイヤーサークルでの焚火会)

### 3 井川での生活

大阪でも都会の方に住んでいたもので、生活スタイルのギャップは非常に大きいです。軽い気持ちで散歩してもどこにもたどり着けません。ウインドウショッピングの選択肢も少なすぎます。地元を離れてから気づいたのですが、私は大阪のことが大好きだったんですね。都会を楽しむために培ってきたノウハウが、秋田ではまるで役に立ちませんので、そちらのノウハウも新たに構築中です。

好酸球性副鼻腔炎という難病持ちだったのですが、涙ぐましい努力の末に基準値を下回り、難病の枠組みから外れました（そのせいで症状

に応じた医療を受けられない恨み節はおいといで)。初めての自炊生活で口にするものを全て自分で選択するようになり、アレルギー治療への知見が深まりました。今ではすっかり腸活男子として様々な発酵食品を自作しています。玉ねぎ麴、醤油麴、ケフィアヨーグルト、ザワークラウト……放っておけば美味しくなる発酵の世界、この感動をぜひ多くの方に体験していただきたいです。さらにこの趣味のおかげで、町の健康志向のマダムたちと打ち解けやすいという副次効果まであります。

そういった理由で食生活に気を遣うため、第一次産業に強い井川は食費の負担が少なく済むので助かります。

生物が好きなので、大阪では見る機会のない珍しい動植物と出会う度に心躍ります。最近のトレンドはアオダイショウとウバタマムシです。怪我をしたアオバトを拾い、保護方法も学びました。ひと夏で駆除したアシナガバチの巣は4つ。薪割りをしていると、カミキリムシの蛹が出てきて写真撮影タイムに。iPhoneにはこの町で出会った美しい蛾たちの専用アルバムが設けられました。大阪で自転車をこいでいると酔っ払いのおじさんが突然横切ってきて危険ですが、この町で私の前を横切るのはカモシカです。友人からは世界の果てににいるのかと呆れられますが、この環境こそが私の心を豊かにしてくれています。



(あの日私の前を横切ったカモシカ)

#### 4 任期後の展望

任期の折り返しを過ぎた現在、焦燥に胸が詰まることもしばしばあります。井川町に定住する場合の私の選択肢は、役場関係の仕事に応募するか、副業の焼菓子づくりを本業にするか。現在は作ったお菓子を地元の産直（湖東のやさい畑）に卸していますが、いずれは自分の店を持ちたい気持ちもあります。スイーツは趣味としても仕事としても魅力的なコンテンツですが、今はまだライフワークとまでは断じられません。なりたい自分は他にもたくさんあるのです。「発酵ランチカフェオーナー」、「腸活アドバイザー」、「動画クリエイター」、「ライター」……どの職業がもっとも自分の魅力を発揮できるのか、進路に悩んでいます。

ところで最近、また好奇の対象が増えました。私が開催するイベントでは申込方法にGoogle Formを用いることがあるのですが、複雑な動作を可能とするフォームを作るためには、より複雑な知識とコーディング作業が必要になります。逆に言えば、知識さえ持っていれば無料で発注システム、宿泊予約システムなども構築できるということです。独立の際に役立ちそうなスキルを片っ端から習得しながら、協力隊業務遂行をスムーズに。不器用な私が自身の力で生き抜くためには、効率化を図り続ける他に道はありません。一見、キャンプ場での仕事は私の将来を長期的に見た場合に無為な時間を過ごしていると取られることもありますが、独立後の外注コストを減らせるように、したたかに地力をつけています。

冒頭に申し上げた通り、私は自身の本質を見出せるものが好きです。どんな業務内容が最も私を魅力的にしてくれるのか。それとも、適当に選んだ職種の中で、自分の魅力を引き出す努力をするのか。今しばらく井川町の稲穂を眺めながら、逡巡していきたいですね。



#### <担当者から一言>

今回寄稿した橋野隊員は、当町で初めての地域おこし協力隊として着任し、観光資源の新たな活用に取り組んでいます。主なミッションは広大な公園の活用と併設するキャンプ場の運営であり、これらを最大限活かすためには、施設や資源の高付加価値化を推進することが重要です。

橋野隊員は、地域のヒト・モノから様々なことを吸収し地域に新しい風を吹き込みながら、果敢にチャレンジしてくれています。残す任期は1年となりますが、これまで積み上げてきた活動がより大きな広がりとなるよう、サポートしていきたいと思います。

（井川町総務課 越後智也）